

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

文理探究科通信

No.1

令和6年7月5日発行

発行 文理探究科推進委員会

今年度から文理探究科がスタートしました。1年生の「学校設定科目KQI」の授業で、6月26日（水）に釧路市立博物館の学芸員による出前授業を実施しました。生徒は、4名の講師による講義を、5・6校時で2講座選択して受講しました。

講師の方の学芸員になるまでの経歴や現在の研究分野を選択した経緯、学芸員の仕事内容などの説明から講義が始まりました。それぞれの専門分野の研究に関するお話とともに、今後の探究活動への心構えなどをお話ししていただきました。各講座の講義概要と、生徒のレポートの一部を紹介します。

講座1 地域史『地域を知ること』

講師 学芸員（主任） 戸田恭司 先生

現在博物館で実施している企画展「釧路の神社を巡って」を題材として、釧路の街並みや建造物・記念碑などの写真を通して、釧路の変遷について話が進みました。まちを知る手だてを学び、自分の知らなかった「釧路の姿」に触れることができた貴重な時間でした。



生徒のレポートより

- ・昔の釧路の姿や釧路が栄えた理由、新釧路川ができた理由など、自分が知らなかった釧路の歴史について知ることができた。
- ・自分の知っている釧路と、昔の様子が全く違っていたので驚いた。昔の釧路の写真を見ることができて貴重な時間だった。
- ・調査の際に「必要とするより多くの情報を集める」「独りよがりな判断をしていないか検証する」「地域に役立っているか」の3点に留意すると教えていただいた。

講座2 考古『土の中に眠る人の歴史』

～考古学ってなんだろう？～

講師 学芸員（主査） 澤田恭平 先生



「大昔の人が生きてきた痕跡から何を読み取り、どのように未来へと伝えていくか」について、ご自身のお仕事の様子を交えて講義していただきました。また、平成11年度まで本校で活動していた「考古学部」が発掘に関わった土器や活動の資料を紹介があり、授業終了後に土器を手にした生徒が「想像していたより重い」と感想を述べていました。

生徒のレポートより

- ・考古学では、想像力と発想力が大切である。土器はそれ自体に言葉や文字はないが、模様が似ている土器が遠く離れた土地で見つかり、地域同士で交流があったかなどを考察することができる。
- ・澤田先生の「仲間を大事に、あまり深く考えすぎず好きなことを楽しむ」という言葉が心に残った。

**講座3 植物『釧路の自然について、野外調査と
博物館資料からわかること』**

講師 学芸員（学芸専門員） 加藤ゆき恵 先生

自然環境や野生生物について調査する方法について、先生の研究分野の「湿原の植生」に関しての調査や「武佐の森」の植物に関する調査などの例を挙げて説明していただきました。また、釧路市立博物館の学芸員になるまでの経緯や現在のお仕事についてのお話を、生徒は熱心に聞いていました。



生徒のレポートより

- ・東日本大震災の津波で損傷した標本のクリーニングを行った時、標本の大切さを感じたというお話が印象に残った。
- ・博物館の学芸員に必要なことは「調べ方を知っていること」（例えば、図鑑の正しい使い方や調べ方、選び方ができること）や、博物館職員・専門家・愛好家など様々な人とのネットワークがあることだと学んだ。

講座4 『生き物に携わる仕事

～自然史学芸員の選択肢』

講師 学芸員（主査） 貞國利夫 先生



貞國先生が現在の仕事の就ききっかけや、博物館で学芸員の方が日常どのような仕事に携わっているか、博物館の標本の収蔵庫の紹介、実際の「鳥の剥製」を示しながら、剥製の製作過程などを説明していただきました。生き物に関する仕事に就きたいと考えている生徒には参考になるお話でした。

生徒のレポートより

- ・自然史学芸員の仕事は、標本管理・製作や、湿原の生物の調査・研究をしている。調査で生物に負担をかける分、成果を還元することを考えながら

貞國先生は研究をしている。

- ・普段何気なく博物館で見ている生物の剥製の裏側には、学芸員さんの努力が隠されているのだと知った。時間をかけて展示を作り、地域の人々の「知りたい」に応えてくださっていることに、とても感謝したい。

【出前授業を受講して、今後の探究活動に生かして行きたいこと】

- ・今後大切な事は、①興味・関心を持ち続ける ②物事を様々な角度から見る ③コミュニケーションの取り方を身に付けることだと教えていただいた。これらに注意して学習していきたい。
- ・「探究的な活動」を進めるためには、自分の興味・関心のあるもの、好きなものを探究して行きたいと考えた。同じテーマで活動する仲間を大切に、協力し合いながら様々な視点を持ち、意見を言うことが大切。どんなことが結論に結びつくかは、未知数であるため、日常生活でも関心や疑問を持つ習慣をつけて、知識を身に付けておきたい。
- ・仮説をしっかりと立て、自分の考えを持ってから、調査していこうと思った。長い時間をかけて深く掘り下げていくイメージで、物事について探究していきたいと思った。日常の生活の中で、不思議だと思うことや興味を持てるものを探していく習慣を付けたい。